

生徒及び教職員に優しい学校を目指す

北海道阿寒高等学校 学級数 3 (校長 吉田 光利)

□ 実践の概要

本校は、「地元でも夢を叶えることができる学校」、「多様な悩みや課題を抱えた生徒に手厚いサポートができる学校」の二本柱を重点目標とし、大自然に囲まれた小規模校だからできる学校づくりを推進するとともに、「働き方改革推進校」として、教職員一人一人を大切にする取組を実践している。

1 実践の目的

学校と地域が一体となった教育活動の実現により、「学びのある学校」、「仲間と成長できる学校」、「安心した生活のできる学校」、「地域から信頼される学校」の4つの学校像を目標に、生徒一人一人の個性を大切にしながら、持てる能力を伸ばし、学力とともに豊かな心を育成する。



2 実践内容

(1) 実施計画

目指す学校像を実現するため、阿寒高校でしかできない生徒一人一人に寄り添った教育を実施するとともに、「働き方改革推進校」として、働き方改革の取組を推進する。

(2) 取組の具体

①ユニバーサルデザインの視点（多様性への対応）を全ての教育活動で実践

【学びやすい学校】

- ・単位修得・進級・卒業を多様なニーズに対応させた教務内規の改善
- ・地域連携校としてT-baseを活用した少人数習熟度別授業や生徒一人一人に寄り添った個別指導の充実

【過ごしやすい学校】

- ・生徒指導と教育相談の一元化により生徒の安全・安心を最優先した学校環境づくり
- ・阿寒高校スクールトーク（全校面談）等によるカウンセリングを柱とした個に応じた寄り添う対応

【通いやすい学校】

- ・地域と連携して実現した遠距離通学生徒に対する釧路市からの交通費助成
- ・毎朝の玄関前での全教員からの声かけによる生徒の通学意欲の醸成及び生徒と教員の信頼関係の向上

②地域と連携し地域から愛される学校

- ・阿寒地区幼小中高の4校連携事業や地域と一体となった教育活動（学校行事や特別講義での連携）

③ユネスコハイスクール

- ・国立公園に隣接し丹頂が舞い降りる類い稀な大自然の中、豊富な体験学習等での豊かな心を育成

④通学可能な学区内全中学校（不登校教室含む）への訪問

- ・校長が直接、中学生・保護者・教職員に対して本校の特色ある取組（働き方改革含む）を説明

⑤体験入学会の改善

- ・ふるさと応援事業を活用した無料送迎バス、T-baseの特別体験授業の実施

⑥地域おこし協力隊と連携した高校の魅力のPRの実施

⑦教職員の学校経営参画意識の高揚のため、コアチームや個々の提案を積極的に採用

- ・ICTの積極的活用（Google Form、自動採点システム、特別支援計画作成ツールLITALICO等）

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

生徒一人一人に焦点を当てた個別の指導が充実し、どんな生徒でも過ごしやすく、学びやすい学校の雰囲気醸成することができた。一方で、個別の支援が必要な生徒へのよりよい支援体制の構築が必要であることが課題である。

また、働き方改革の取組の結果、超過勤務時間が減少した（R6は昨年度から、2.7h/人の減少）。

(4) 改善後の取組

特別な支援が必要な生徒の増加が特定の教職員の負担感に繋がらないようにする組織マネジメントの実施

3 実践のポイント

- ・生徒一人一人に寄り添う教員の姿が、生徒との信頼関係を構築していること。
- ・教職員が、職務へのやりがいを感じていること。